

第5回県西地域活性化推進協議会 結果概要

(H27.11.27 10:00～11:00 於：神奈川県小田原合同庁舎 3階会議室)

開会（県西地域活性化担当部長）

知事あいさつ

黒岩知事：おはようございます。本日は大変お忙しいなか、この県西地域活性化推進協議会にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

県西地域活性化プロジェクトも今年は2年目に入りまして、「未病を治す」ことが目に見えるような形になるよう、これまで取り組みを進めてきたところであります。

そんななか、箱根もやっと警戒レベルが1になったということで、本当に良かったなと思います。これから巻き返す意味でも、さらに箱根を支援していきたいと思います。これまでの皆様のご支援、本当にありがとうございました。

そうしたなかで、「県西地域活性化プロジェクト推進交付金」につきましては、皆様から意欲的なご提案をいただき、プロジェクトを先導する優れた取り組みを採択することができました。

また、「未病の戦略的エリア」の核となる施設として位置づけております「未病いやしの里センター」につきましても、民間事業者から積極的なご提案をいただき、最優秀提案を採択することができました。計画の具体化はこれからの作業となりますが、この地域に人をどんどん引きつける、マグネット力のある施設になることを期待しているところであります。

さらに、先月には国際シンポジウム、「未病サミット神奈川2015 in 箱根」を開催いたしました。ちょうど今日の日経新聞に両面で大きく出ておりますけれども、未病のコンセプトというものを世界に発信する非常に良い機会になったのではないかと考えております。開催に当たりましては、県西地域2市8町の皆様にご協力いただいたこと、心から感謝申し上げます。

このように、様々な形で取り組みが進んでいることを実感しており、更にこの流れを加速させていくために、今日は皆様と率直に意見を交わしたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

平成27年度県西地域活性化プロジェクトの取組状況について、政策局長から説明（資料1）

(仮称) 未病いやしの里センターの取組状況について、政策局長から説明
(資料 9)

県西地域活性化プロジェクト推進交付金事業の取組状況について、各団体
() から説明 (資料 10 - 1 から 10 - 6)

() 南足柄市長、箱根町企画観光部長、真鶴町長、湯河原町総務部地域政
策課企画係長、小田原箱根商工会議所会頭、県西地域活性化担当部長

箱根町企画観光部長：大涌谷の関係で一点、近況報告をさせていただきます。
本日お越しをいただきました皆様には大変ご心配をいただき、また、多大な
ご支援ご協力も頂戴いたし、今日に至ったわけですが、レベル 1
となりまして、つい先だっの 3 連休、大変賑わいのある箱根が戻って来た
ように感じる事が出来ました。

今後は、まずは多くの方々に感謝、お礼をしっかりと申し上げ、活火山をも
つ箱根の現状を正確に、正しくお伝えし、今まで以上、丁寧で積極的な誘客
に努めて参りますので、今後ともご指導、ご協力いただきますようによろし
くお願いいたします。

小田原箱根商工会議所会頭：箱根のことにつきまして御礼を申し上げたいと思
います。本当に 5 月以来、黒岩知事、県の皆様の迅速かつ的確なアクション
をいただきまして、また、今日お集まりの皆様にも大変ご支援をいただきま
して、本当に心から、地元の経済界といたしまして御礼を申し上げたいと思
います。

おかげさまでレベルが 1 に下がりましたけれども、まだまだ予断を許さな
い状況であると私は認識をしてございます。大涌谷も昔のようにそのままの
形でまた使えるかどうかはまだわかりませんし、レベル 1 になったからとい
ってすぐにお客さんも入って来てくれるとは思ってはいけないなと思ってい
る次第でございます。

今回のことで私ども地元で商売をしている者として、大変いろんなことを
学んだと思っております。箱根の観光のあり方ということも、もう一度見直
しをしていく必要があるでしょうし、小田原の観光をどうするかということ
もあります。そして小田原と箱根をどう繋いでいくかということについても、
やはりきちんと議論していくべきだなと思いました。単なる復旧、いわゆる
「旧に復する」ということだけではなくて、次の新たな箱根、小田原の観光

のあり方ということを探索していく時期かなと、つくづく思っておりますので、これからの皆様のいろいろなアドバイスも含めて、ご支援ご協力をお願いしたいと思っております。

質疑・意見交換

松田町長：県西地域活性化プロジェクト推進交付金ということでいくつかご提案いただいた方々のご報告があった一方で、交付金は関係なくしてでも地域で一生懸命頑張っているところもあります。私は今年と来年とあしがら観光協会の会長を務めていますが、やはりこの地域の活性化は非常に大切で、もっと発信していきたいと思っております。今日、県政策局長から説明があった資料1のなかで、情報発信サイトを現在作成中とのことでした。2019年のラグビーワールドカップ、また、2020年のオリンピックを見据え、インバウンド対策も含めたいろんなことで、この魅力ある神奈川に来ていただくためのホームページ等を作成されていると考えておりますが、概略で良いので、どのような感じのホームページが今作られているのか、簡単に説明をお願いいたします。

政策局長：現在、県西地域活性化プロジェクト全体を発信するホームページを持っていないことから、このホームページはプロジェクト全体の紹介を目的としておりますが、大々的なイメージではございません。まだ具体案としてはお示しするような形にはなっておりませんので、ご意見いただければ、内容に取り込めるかなと思っております。

山北町長：6ページの山北つぶらの公園の整備ということで、先ほどご説明いただき、「花の山里に憩い、楽しみ、森に出会い、学ぶ」を基本テーマに、県民のレクリエーションの場になることを目指すということですが、かなり事業が遅れていて、もう少し詳しくわかっていることがあればお話いただければと思い、質問させていただきます。

政策局長：県土整備局から聞いている話では、28年度中に一部開園ということで、100haを超える全体のうちの、20ha弱が第1期事業。内容的にはウォーキングコースの設定、四季をいろいろ感じる植栽、運動教室の開催が出来るような場所などを計画しております。28年度以降については、まだ詳しく聞いていませんが、順次進めていくということです。

小田原市長：これは質問というよりも皆様方への協力をお願いも含めてですけど、さきほど二見局長からラグビーの件でお触れいただきました。黒岩知事にもご尽力賜って、6月に（公財）日本ラグビーフットボール協会と協定を結んでいったところ、ワールドカップでのあの活躍は我々も想像を超えたものであってですね、そのあとラグビーに対する市民の普及関心と熱は急速に高まっている状況でございます。今回たまたま小田原市にあります城山陸上競技場というものを合宿地で使うということになりますが、ラグビー人口の増加というものと、あとラグビーを受け入れていく地域の盛り上がりというものを造成していくという意味では、まさに地域が連携してやっていく必要があると思っています。先般、小田原市では小田原市のラグビーフットボール協会が初めて立ち上がったんですけれども、ラグビーがこれだけ盛り上がったということで、「俺もラグビーやっていたんだよ」という人がけっこうぞろぞろ出てきているんですよ。もう一回クラブチームやろうかなという話がけっこうあちこちで出てきていて、これはシニア層から子どものチームまで、いろんなチームがラグビーを機に立ち上がる良いチャンスだと思っています。一定の広さをもったラグビーのグラウンドが無くても、いろんな形でそういったスポーツの振興を多分図ることが出来ると思います。2017年の春から全日本の合宿がこちらに来ることになっていますが、それまでに出来るだけ受け入れの熱を上げていきたいと思っていますので、ラグビーという切り口で是非、知事はじめ皆様方にも旗を振っていただいて、ともに盛り上がっていただければと思っています。

まとめ

黒岩知事：皆様の取り組み、いろいろ話をお伺いまして、未病という言葉で、このように幅広い取り組みが進んでいるということで大変心強いと思えました。

今、冒頭お話しをした日経新聞の記事を、お手元にお配りいたしました。2日間の未病サミットの内容が非常に丁寧にまとめられた記事であります。これは全国版の記事となっております。

この成果を受けて、先日、WHOの本部に出向いてまいりました。この未病サミットにWHOから専門官が来ていただき、2日間じっくりと議論に参加して下さって、この未病のコンセプトは素晴らしいとの想いを持って帰られたということで、それを追っかけるようにWHOに行って話をしてまいりました。そして高齢者対策の担当官を集めていただいて、そこで私がプレゼンテーションをいたしました。その中で、WHOではこれまで、感染症対策が一番大きな課題だったところが、新たな課題として浮かび上がっている

のが超高齢化対策だということです。WHOにとっても非常に新しいテーマということでした。そのなかでWHOから見ればこの神奈川の取り組みはどう見えるかということです。神奈川は超高齢社会の進み方が圧倒的に早い。日本の中でも1～2位を争うくらい速い。ということは、世界の中で一番早いということでもあるんですね。そうした中で神奈川はどうそれを乗り越えていこうとしているのか。これはWHOとしても大変な関心事であるという中で、コンセプトは未病だという話をしてまいりました。そうすると、皆さんが未病だ未病だということになり、未病コンセプトに共感をしてくださいました。こうしたせっかくの流れですから、今後、人材交流をやっていきたいと思いますということになり、県からもWHOに人を派遣して、太いパイプを作って、関係を深めていきたいと思っております。

そうした流れの中で、未病コンセプトはこれからまさに世界に向けて発信することが本格的に動き始めるところでもあります。未病といえば神奈川県西地域に来れば、それが全てそろっていて、いろんな形で体感できる、そういうエリアにしていくことが非常に大事なことになると思っております。

それと同時に、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、様々に取り組んでいることを間に合わせるよう準備を進めてまいりましたけれども、その1年前にラグビーワールドカップが開かれることになりました。おかげさまで、ラグビーが急に超人気スポーツになり、2019年のラグビーワールドカップも大変期待の出来る、大イベントになりそうです。しかも、我々非常についているなと思うのは、新国立競技場の建設が遅れたことによって、横浜の日産スタジアムで決勝戦、準決勝戦の2試合という非常に大きな試合が組み込まれる予定となっております。

これは本当の追い風であり、ラグビーワールドカップは、私も先日ロンドンの大会を見てまいりましたけれども、7万2千席が日産スタジアムにありますが、その中の最低3万6千席は外国のお客さんだということです。つまり、ワールドラグビーが半分のチケットを持っているということです。3万6千人、場合によっては4万人くらいの外国からのお客さんがどっこの横浜にやってくることとなります。ラグビーのお客さんは一回来ると20日間以上は滞在するということです。ですから2019年には4万人のお金持ち、ラグビーのお客さんはお金持ちが多いということも一つの特徴のようですけれども、これが20日間以上やってくるということ。これをどのようにして経済活性化に結び付けていけるか、早急に皆さんとともに準備していきたいと思っております。

その中で、今日様々に出てまいりました、プロジェクトの取り組みも、全部見える化をしていきたいと思っております。そして、2019年のラグビー

ーワールドカップに、世界中から訪れるお客様に、今日はこっちに、明日はあっちに行ってください、という流れを作っていきたい。横浜だけではとても泊まりきれぬお客様の数ではありませんので、この県西地域、箱根、湯河原等々も含めてですね、皆さんをお連れして、こちらに滞在していただき、そして日産スタジアムのラグビーワールドカップを観戦していただく。それ以外の時にはこちら県西地域の魅力を色々味わっていただく。そういった工夫を是非続けていただきたいと思います。そういう形で、今皆様が行っているこの県西地域活性化プロジェクトを大きな形にしていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それとともに、流れの中でもうひとつあるのが「マグカル」ということであり、マグネットカルチャー、文化芸術の力によって人をひきつけようという取り組み、東京オリンピック・パラリンピックと同時に文化プロジェクトというものもあります。これも我々一年前倒ししていきたい。各地域の様々な伝統的なお祭り、芸能、市民ミュージカルなどを全部洗い出していただき、それを全部統合した形で、神奈川全体の文化芸術の側面を同時にまとめて、大きなプロジェクトにしていきたいと考えておりますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。

閉会